

「大友氏遺跡歴史公園周辺地区都市再生整備計画事後評価（素案）」の
市民意見公募において寄せられた意見等の概要とそれに対する本市の考え方

意見提出期間：令和7年12月26日（金）～令和8年1月30日（金）

意見提出者数：3名

意見件数：12件

番号	意見の概要	意見に対する本市の考え方
1	<p>大友宗麟公園は、現状では大友宗麟に興味のある人にも、そうでない人にも魅力が乏しく、リピーターを生みにくいと感じる。南蛮館の展示、石碑の記念撮影、イベントなども集客力が弱く、看板が倒れたままなど管理面の不備が目立つ。</p>	<p>現在大友氏遺跡歴史公園は、段階的に整備を進めているところです。大友氏館跡庭園や南蛮 BVNGO 交流館のリピーター獲得に向け、交流館の定期的な資料の展示替えや月替わりのイベントを開催し、「いつ来ても、何度来ても新しい発見がある場所」を目指していきたくて考えています。大友氏遺跡の魅力をもっと多くの方へ届けるため、新たな SNS アカウントの開設や、大分県内の各文化施設へのパンフレット配布など、多様な媒体を活用した広報活動を展開したいと考えています。あわせて、来場者の方が常に気持ちよく過ごせるよう、日常の適切な維持管理にも努めてまいります。</p>
2	<p>（線路敷ボードウォークの）バスケットコートは、若者が多く利用している。今後は小学生向けの設備も含めてスポーツ環境を拡充し、宗麟カップのようなイベントを開くなど、子どもや若い世代を公園に取り込むべきだと考える。また、砂場・ブランコ・芝生など、子どもが、実際に使う遊具の整備が必要である。</p>	<p>大友氏遺跡歴史公園は、遺跡の保存と文化財の活用、その価値を次世代へ継承することを目的として整備を進めています。国指定史跡地は歴史的・学術的価値を損なうような整備は厳しく制限されているため、砂場・ブランコ・遊具については設置をすることができません。公園西側については、芝生や木陰のベンチなどの整備を予定しています。遺跡の理解を促進させる「蹴鞠</p>

		の再現」や「弓遊び」などレクリエーション型の体験イベントを通じて、子どもを含む多くの市民が楽しみながら郷土の歴史に触れる場となる整備を行ってまいります。本格的なスポーツイベント等の実施は制限されますが、市内の他の施設と棲み分けを行いながら実施してまいります。
3	長期間の工事をしている公園だが、周辺住民は期待よりも失望の声が多いのが実情である。	歴史公園は現在整備途中であり、整備を進めるにあたり公園用地の公有化の実施や発掘調査の実施など長期的な時間を要するため住民説明会等を開催するなど、周辺住民にも理解を得ながら、公園整備を進めてきたところです。本地区の事業費の大部分は、基幹事業である「大友氏遺跡歴史公園基盤整備」に充てられており、史跡の公有化を図る、公園としての景観・機能を支える基礎的な整備が中心となっていることから、今後も説明責任を果たしながら事業を推進してまいります。
4	事業費に見合う直接的な効果を感じられない。	
5	大分市民だけでなく、公園周辺の住民できえイベント情報を認知していないことが問題である。	イベント開催時には、大分市民向けに市報をはじめ、JR 大分シティでのデジタルサイネージ広報や、SNS を活用した広報をさらに進め、周辺住民に向けては、地元自治会の協力を得ながら広報活動を行うとともに、近隣小中学校へのチラシ配布の強化などに努め、より一層の周知を図っていきたいと考えています。
6	ライトアップなど費用のかかる取り組みは、単発ではなく週単位・月単位の継続したイベントとして行うべきである。	ライトアップやイベント運営については、費用対効果を考慮したうえで、検討してまいります。
7	史跡ボランティアガイドやまち歩きツアーの取組はいいと思う。	今後も、ガイドの充実やツアー内容の工夫を図るなど、取り組んでまいります。

8	<p>歴史をテーマにした公園としては来場者数が少なく、一度の来訪では認知に広がらない。公園全体が「人が集まり回遊するハブ」となる仕組みづくりが必要と考える。立地の良い公園だからこそ、日常的に人が集まる場づくりが求められている。</p>	<p>大友氏遺跡を核として、府内城跡や線路敷ボードウォーク広場等とネットワーク化を図ることで、地域全体の回遊性と滞留性の向上を目指します。</p>
9	<p>中世南蛮文化を再現するには、大友館の再建だけでなく、ザビエルやアルメイダなどキリスト教関連の人物にも焦点を当て、当時の時代背景全体を演出する必要がある。また、県内のキリシタン遺跡を持つ自治体とのネットワークを活用した連携も重要だが、計画にはそのような視点が見られない。</p>	<p>本市が掲げる「南蛮文化発祥都市宣言」に基づき、キリシタン文化や海外交流の歴史を体感・発信できる拠点として整備を進めてまいります。また、大友氏に関わる遺跡をもつ自治体やキリシタン南蛮文化遺産をもつ自治体と連携し、イベント等を計画してまいります。</p>
10	<p>図書館での関連図書コーナーの充実や、ホルトホール、市役所などの人目につく場所に大友館模型を展示することで、関心を高められると考えられる。また、(日本における)西洋音楽・西洋医学等の発祥の地であることを積極的にアピールし、市民の認知を広げることで、大分市への誇りや地元愛につながるのではないかと。</p>	<p>大友館模型の展示については、今後検討をしてまいります。また、大友氏の功績や西洋音楽・西洋医術導入に果たした役割など、大分の歴史的価値を市民へ広く知っていただく展示やシンポジウム等、郷土への誇りや愛着の醸成を図るイベントについて、より一層取り組んでまいります。</p>
11	<p>他県から見れば大友宗麟は強いネームバリューがあるわけではなく、過大評価しすぎている面もある。</p>	<p>大友宗麟は、戦国時代に九州の最大勢力を築いた「キリシタン大名」として知られ、その名は当時ヨーロッパにまで届くほど絶大でした。特に南蛮貿易や音楽・医術・天文学・演劇をはじめとした西洋文化をいち早く導入した先進的な姿勢が高く評価されています。今後も他の戦国大名とは違う宗麟の文化的な功績を活かして、本市独自の魅</p>

		力あるまちづくりや観光振興に取り組んでまいりたいと考えております。
12	事業の「期待度」という指標は曖昧で客観性に欠け、HP アクセス数やSNS フォロワー数などの具体的な数値を用いるべきではないか。	「期待度」という指標は、大友氏遺跡の価値の周知と市民の歴史・文化資源を活かしたまちづくりの意識の醸成度を計る定量的で客観性をもつ指標として設定を行いました。今後の指標については、より多くの手法を活用し、設定できるよう検討してまいります。